

(公益社団法人) 日本ライフル射撃協会 インテグリティ講習会

## スポーツインテグリティについて

2020年2月23日 審判講習会  
(公益社団法人) 日本ライフル射撃協会

1

インテグリティー【integrity】とは

誠実、正直、真摯、高潔

などの概念を意味する言葉

2

## スポーツ・インテグリティとは

スポーツにおける「インテグリティ」とは、  
「スポーツが様々な脅威により欠けるところなく、  
価値ある高潔な状態」を指します。

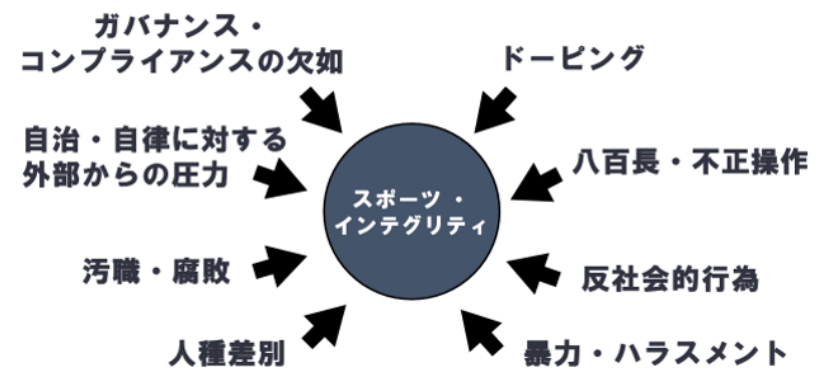
JSCは、平成26年（2014年）から

スポーツ・インテグリティ・ユニット」を設置し、  
八百長・違法賭博、ガバナンス欠如、暴力、ドーピング等の様々な脅威から、Sport Integrity（スポーツにおける誠実性・健全性・高潔性）を守る取組を実施しています。

【JOC WEBサイトから抜粋】

3

## スポーツ・インテグリティを脅かす要因



【JOC WEBサイトから抜粋】

4

## コンプライアンス

- 「法令遵守」
- 最近では、「守る」という狭義的意味から「適切な対応」という広義的な定義を指すように変化してきた

5

## コンプライアンス

法令やルールを守っているだけでは  
許されない時代になってきた

しかし、広義的な定義に変化しても  
不正や事件が無くならない現実がある

6

## コンプライアンス

コンプライアンスという言葉自体に、ルールを「守らされる」という意識が強く、「押し付けられる」「やらされている」感があり、そこに「当事者意識」を持ちにくい。「自分の問題」として捉えづらく、結果として事件や事故、不正が無くならない現実が存在する。

7

## インテグリティという考え方

「インテグリティ」という考え方を持った上で、「コンプライアンス」することによって、選手、指導者、役員、アントラージュなど、スポーツに関わる全ての人が、自主的に、スポーツの価値を維持・向上させていくことを目指していく。

8

2016年10月25日 文部科学省

## スポーツ・インテグリティー の保護について

9

## スポーツインテグリティーの保護について

2016年10月25日 文部科学省

### 3. 具体的施策

#### ① 選手、指導者など個人に向けた取組

○ 国、関係団体は、**選手や関係者一人一人が主体的に**スポーツ・**インテグリティーの意義**を理解し、**スポーツの価値**を守り、**高める役割**を担う者として適切に行動できるよう、**主体的かつ能動的な学習を促す効果的な教育・研修プログラムを推進する。**

○ **コーチ育成**についても、**体罰・暴力等の不適切な指導の防止**をはじめとして**スポーツ・インテグリティーの保護**についても**適切に指導できる人材育成を推進する。**

10

## スポーツインテグリティーの保護について

2016年10月25日 文部科学省

### 3. 具体的施策

#### ② スポーツ団体に向けた取組

○ 国、関係団体は、それぞれが**果たすべき責任や役割**を踏まえ、NFのあるべき組織運営を明確にし、それに基づき各団体の取組を**評価する指標を策定する。**

その評価指標を踏まえ、**各団体における自己点検・評価を促進するとともに、必要な体制を整備し、各団体の取組を継続的にモニタリング・評価を行う。**

11

## スポーツインテグリティーの保護について

2016年10月25日 文部科学省

### 3. 具体的施策

#### ② スポーツ団体に向けた取組

○ **モニタリング・評価の結果、取組が十分でない団体に対し、それぞれの団体の状況に応じた指導・助言・支援を行う。**

○ 仮に当該指導等を行ったにも関わらず、**改善に向けた取組が十分に行われない場合には、スポーツ庁は公益法人に対する監督権限を有する内閣府と連携して、必要な指導等を行う。**

⇒ **国が関与することを示唆した**

12

2019年6月10日 スポーツ庁

## スポーツ団体ガバナンスコード ＜中央競技団体向け＞

13

## スポーツ団体ガバナンスコード＜中央競技団体向け＞

2019年6月10日 スポーツ庁

### ◆ ガバナンスコード規定（13の原則）

- 原則1 組織運営等に関する基本計画を策定し公表すべきである
- 原則2 適切な組織運営を確保するための役員等の体制を整備すべきである
- 原則3 組織運営等に必要な規定を整備すべきである
- 原則4 コンプライアンス委員会を設置すべきである
- 原則5 コンプライアンス強化のための教育を実施すべきである
- 原則6 法務、会計等の体制を構築すべきである
- 原則7 適切な情報開示を行うべきである
- 原則8 利益相反を適切に管理すべきである
- 原則9 通報制度を構築すべきである
- 原則10 懲罰制度を構築すべきである
- 原則11 選手、指導等との間の紛争の迅速かつ適正な解決に取り組むべきである
- 原則12 危機管理及び不祥事対応体制を構築すべきである
- 原則13 地方組織等に対するガバナンスの確保、コンプライアンスの強化等に係る指導、助言及び支援を行うべきである

14

## スポーツ団体ガバナンスコード ＜中央競技団体向け＞

2019年6月10日 スポーツ庁

原則5 コンプライアンス強化のための教育を実施すべきである。

- （１）NF 役職員向けのコンプライアンス教育を実施すること
- （２）選手及び指導者向けのコンプライアンス教育を実施すること
- （３）審判員向けのコンプライアンス教育を実施すること

15

## スポーツ団体ガバナンスコード

ガバナンスコードにはNFからの報告義務が課せられています。

スポーツ庁はその内容に基づき審査し、NF を評価し補助金などの支給について検討します。

16

## 日ラ主催試合への参加条件

本来であれば、全ての会員に対し「インテグリティ教育」を実施する必要がありますが、まずは2020年度より、日ラ主催試合（G1,G2大会）へ出場する条件として、日ラのインテグリティ教育プログラム（講習）の受講を義務化いたしました。

17

## ガバナンスコード 原則5

### 【なぜ不正行為が生じるのか】

JSCにおいては、いわゆる「不正のトライアングル」の考え方を参考にした「スポーツ・コンプライアンス評価指標」を開発している。これは、「動機・プレッシャー」、「機会」、「正当化」の3つの要素がそろった時に不正が行われるリスクが高いとする考え方であり、JSCでは、スポーツ団体について、3つの要素別に下表のとおり整理している。

18

18

## 不正のトライアングル

<表：スポーツ団体の不正行為を誘発する要因のイメージ>

不正行為を誘発する要素	説明	要因のイメージ
動機・プレッシャー	不正を実際に行う際の心理的なきっかけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パフォーマンスに伸び悩んでいた/思うように選手のパフォーマンスを伸ばせていなかった</li> <li>・一人で処理しきれない量の業務を抱えていた</li> <li>・発生した問題を相談できる相手がいないかった</li> </ul>
機会	不正を行おうとすれば可能な環境が存在する状態	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定の人物に権限が集中していた</li> <li>・特定現場/事務局の一部の人間が属人的に判断・意思決定する状況があった</li> </ul>
正当化	不正を行おうとする者が良心を働かせないためにする理由付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>・急な案件でどうにか対応せざるを得ない状況だった</li> <li>・「現場は特別」という雰囲気や土壌があった</li> <li>・「大事の前の小事」という甘い認識があった</li> <li>・以前からの慣習や伝統に従うのが通例となっていた</li> </ul>

19

## 人はなぜ信号無視をするのか？

動機（プレッシャー）：不正を行う際の心理的なきっかけ

待ち合わせの時間に間に合いたい・出発が遅れた

機会：不正を行うことが可能な環境

誰も見ていない・車も来ていない

正当化：不正を行うものが良心を働かせない為の理由

みんなやっている・ちゃんと左右を確認している

20

20

## 不正を起こさないためにはどうするのか？

動機（プレッシャー）：不正を犯す必要性

機会：不正が発生する可能性がある状況

⇒ まずは機会を無くすことが効果的

正当化：不正行為をすることを正当化する考え方

21

21

## ガバナンスコード 原則5

この3つの要素はそれぞれに連動し、不正行為のきっかけは、3つの要素のどこからでも生じ得る。例えば、「機会」があれば潜在的な「動機」を呼び起こし、自らの行為を「正当化」する。「動機」があれば、「機会」を探し、「正当化」しようとする。「正当化」された理由があれば「動機」が生まれ、「機会」を探し求める。

多くのNFは人的・財政的基盤が脆弱である一方で、国際大会等での競技成績が求められることなどから、本来的に「動機」や「プレッシャー」が生じやすい条件がある。NFにおいては、不正行為を効果的に防止するため、不正行為を誘発するリスクが生じていないかについて、自らの組織や競技・指導現場の状況等を定期的に点検するとともに、不正行為が「正当化」されないよう、コンプライアンス意識の徹底、浸透を図るための教育を継続的に実施することが極めて重要である。

22

22

## インテグリティ教育の実施方法

インテグリティ教育は特別なものではありません。  
普段、選手に対して行っているコンプライアンスや挨拶やマナーといった「人間力」を養う指導のすべてがインテグリティに繋がります。

23

## リスクマネジメント

自分の判断基準を持つ

24

## インテグリティ教育の実施方法

JOCのリスクマネジメントに関しては必須とさせていただき、それ以外に関しては、複数回に分けて実施していただいております。

インテグリティは講習会を受講したから身に着くというものではなく、日々意識をして活動、生活することにより、インテグリティを追及するものです。

25

## インテグリティ教育の目的

講習はあくまで知る機会であり、アンテナを張って、日々発生する事例を確認し、自らの行動にどのように生かしていくかを考えることです。是非継続して学習し、インテグリティを追及してください。

26

審判にとって最も大切なものとは？

27

27